

令和 8 年度 名古屋市 英語教育改善プラン

目標

ALT等との効果的なチーム・ティーチングを活用して、グローバルに活躍する資質・能力を育成することをめざした指導改善を推進する。

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①英語の授業に進んで参加していると回答した児童の割合(本市調査)について、改善が見られる。
(R6:77.0%⇒R7:78.0%)
- ②英語の授業の内容はよく分かると回答する児童の割合(本市調査)について、改善が見られる。
(R6:74.0%⇒R7:75.0%)

未だ改善が必要な点

- ①授業で学習した英語を使って、自分のことや身近なことについて話すことができるかと回答する児童の割合(本市調査)は高いが、目標(R10:80.0%)に到達していない。(R7:70.0%)
- ②ALTの話す内容が理解できる児童の割合(本市調査)について、未だ課題が見られる。
(R6:74.0%⇒R7:73.0%)

2. 要因分析

- ①②児童が興味・関心をもって取り組めるような言語活動や効果的な振り返りについて理解を深める研修を行ったことで、英語に進んで参加する児童が増加し、「英語の授業の内容はよく分かる」と回答する児童の割合が改善と考えられる。

- ①②外国語活動・外国語科の授業において、ALT等との限られたチーム・ティーチングの時間で、充実したやり取りができていないなど、ALT等とのチーム・ティーチングが効果的に行われていないことが要因と考えられる。また、外国語活動・外国語科以外の授業や学校行事でのALT等とのコミュニケーションの機会が十分に設定されていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②言語活動を通じた授業改善の推進
教育センターでの経年研修や応募研修、研修動画配信を通じて、本市が目指す「子ども中心の学び」の考え方を示した「ナゴヤ学びのコンパス」の方針を踏まえながら、アジア・アジアパラ競技大会等、児童が興味・関心をもって取り組めるような言語活動やデジタル教科書の活用、ALT等との効果的なチーム・ティーチングについて理解を深める研修を行い、更なる授業改善を促す。

- ①②ALT等を生かした授業改善の推進
児童が本時のねらいや単元末課題を理解し、見通しをもってデジタル教科書等を活用して学習し、ALT等と話すことができるようにするための指導法の理解を深める研修を行い、授業改善を促す。
ALT等との効果的なチーム・ティーチングを実施することができるようALTコーディネーターを小学校に派遣する。また、昨年度作成した活用事例集にアジア・アジアパラ競技大会等を生かした効果的なALT等の活用法を紹介するなど、外国語活動・外国語科以外の授業や学校行事でのALT等とのコミュニケーションの機会を掲載した改訂版を作成し、周知する。
参考URL:「ナゴヤ学びのコンパス」
<https://nagoyaschoolinnovation.city.nagoya.jp/compass>

令和 8 年度 名古屋市 英語教育改善プラン

ALTとAIを活用して言語活動を充実させ、グローバルに活躍する資質・能力を育成することをめざした授業改善を推進する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7: 61% ⇒ R8: 70%)

目標

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①英語の勉強は好きだと回答する生徒の割合(本市調査)について改善が見られる。
(R6:53.0%⇒R7:56.0%)
- ②自分のことについて話すことができると回答する生徒の割合(本市調査)について改善が見られる。
(R6:51.0%⇒R7:59.0%)

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が目標 (R7:65.0%) に到達していない。
(R7:61.0%)
- ②ALTの話す内容が理解できる生徒の割合(本市調査)について、未だ課題が見られる。
(R6:65.0%⇒R7:62.0%)

2. 要因分析

- ①②本市が目指す「子ども中心の学び」の考え方を示した「ナゴヤ学びのコンパス」を踏まえながら、生徒が興味・関心をもって取り組めるような言語活動や効果的な振り返りについて理解を深める研修を行い、授業改善を促したことが要因と考えられる。

- ①アウトプットの機会や英語力を把握する機会が十分でなく、英語力の到達度や課題を生徒自身や教師が把握できていないため、個々の到達度や課題に応じた学習の自己調整や指導が十分に行われていないことが要因として考えられる。
- ②アウトプットの機会が十分でなく、ALTと話す際に、準備した内容を伝えるのみになり、双方向のやり取りができていないことが要因として考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②言語活動を通じた授業改善の推進
教育センターでの経年研修や応募研修、研修動画配信を通じて、本市が目指す「子ども中心の学び」の考え方を示した「ナゴヤ学びのコンパス」の方針を踏まえながら、生徒が興味・関心をもって取り組めるような言語活動や効果的な振り返りについて理解を深める研修を行い、更なる授業改善を促す。

- ①②ALTとAIを活用した授業改善の推進
文科省の「AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業」において、自己調整学習をテーマにした10校のモデル校においては、AIキャラクターを相手にアウトプットの回数を増やし、AIによる英語力の診断により、生徒自身が英語力を把握できるようにする。地域の魅力発信等をテーマにした7校のモデル校においては、AIを活用してプレゼンテーション原稿の発音練習、やり取り練習を行い、ALTと双方向のやり取りができるようにする。また、アジア・アジアパシフィック競技大会で名古屋を訪れる外国人に地域の魅力発信等を行うなど、本物のコミュニケーションの機会を設定し、アウトプットの機会を増やす。さらに、「AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業」のモデル校の実践を市内に広め、各校の実態に応じたALTとAIを活用した授業改善の推進を促す。

参考URL: 「ナゴヤ学びのコンパス」

<https://nagoyaschoolinnovation.city.nagoya.jp/compass>

令和 8 年度 名古屋市 英語教育改善プラン

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力、グローバルに活躍するための資質・能力を育成する。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 57.2%、B1以上 34.1% ⇒ R8 : A2以上 65%、B1以上 30%)

目標

☐ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① 生徒の英語力の状況 CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が増加した。
(R6:42.3 %⇒R7:57.2%)
- ② 英語担当教師の英語力の状況 CEFR B2レベル相当以上を取得している教師の割合が増加した。
(R6:91.5 %⇒R7:94.5%)

未だ改善が必要な点

- ① 英語担当教師の授業における英語の使用状況（発話の50%以上）の割合が減少した。
(R6:34.1%⇒R7:30.8%)
- ② 英語による言語活動の時間の割合（授業中の50%以上）を高めたいが、依然として十分ではない。
(参考 : R6:50.0%)

2. 要因分析

- ①について、教師とALTによる発話活動のモデル提示や生徒とALTとの発話機会の増加など、ALTとのチーム・ティーチングが各校で定着したことが一因と考えられる。
- ②において、英語教師の外部検定試験助成を活用する等資格取得の機会の周知を行ったことが一因と考えられる。
- ①②について、話す技能では、生徒自身が習熟状況を把握しにくく、教師も生徒一人ひとりの学習状況や成果を把握しづらい。そのため、生徒の個別の資質・能力に応じた言語活動を授業の中で積極的に導入しづらい状況があることが要因と考えられる。ICTやAIの活用など、個別最適な言語活動を実現できる環境整備が必要である。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ②①② 高等学校教育課程研究集会
学習指導要領の趣旨の周知と、授業改善の推進を図るために実施する。特に、AIの活用について周知を行う。
- ②①② 教職員研修・採用課研修
・高等学校各科研修講座
教科書の内容から実践的なコミュニケーション活動へと発展させる実践例を学び、授業力等の更なる向上を図る。
- ・高等学校学びの変革研修
学習指導要領の趣旨に沿った高等学校における授業の在り方を研究し、教員としての資質・能力の向上を図る。
- ・高等学校ICT・ネットワーク研修講座
各校の教育活動に適応したICT活用、特にAI活用の在り方について学び、実践を行いながら、得た知識・技能を市立高校全体に広げる。
- ①②② ALT等の配置（全高等学校）
各校・各学科の特色に応じて、外国人英語指導助手や常勤または非常勤の外国人英語教諭を配置する。
- ①②①② AIを活用した英語教育強化事業
AIを活用した自己調整学習および地域の魅力発信について実践研究を行い、話す技能の向上の方策を探り、市立高校全体に広げる。
- ①①② グローバルエデュケーションセンター事業
ネイティブ講師とともに英語のみで学習できるグローバルエデュケーションセンターでの学習プログラムを実施する。

目標達成状況一覧表

令和8年度様式（様式2）

名古屋市教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		55	50.2	55	42.3	60	57.2	65		70	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		20	19.8	20	15.8	25	34.1	30		35	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		60	36.4	60	50	65		70		75	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		100	28.9	90	32.9	95		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	70.6	100		100		100		100	
		公表(%)	100	35.3	70		80		90		100	
		達成状況の把握(%)	80	47.1	60		65		70		75	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		80	85.4	90	91.5	92	94.5	94		96	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		60	28.6	55	34.1	60	30.8	65		70	
校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		50	56.1	60	58.4	65	61	70		75	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		60	55.8	80		90		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		90	80.3	90		95		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	70	50.9	70		80		90		100	
		達成状況の把握(%)	85	67.3	85		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		52	48.2	52	51.1	53	67.8	54		55	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		60	51.5	60		65		70		75	
校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	60	58.6	65		70		75		80	
		達成状況の把握(%)	85	83.5	90		95		100		100	